

「経常収支比率」

【30】 85.2% ← 【29】 84.0% (1.2ポイント上昇)

★分母となる歳入では、臨時財政対策債や地方消費税交付金などが増加したものの、分子となる歳出では、障がい福祉サービス事業費などの扶助費や人件費などが増加したことから、比率が上昇しました。

【主な要因】

歳出(分子：経常的な経費に充当される一般財源)は14億2,700万円の増加

扶助費の増(4億8,900万円)

障がい福祉サービス事業費2億6,000万円増など

人件費の増(4億4,800万円)

給与改定による職員給の増など

繰出金の増(4億1,800万円)

後期高齢者医療事業会計繰出金(療養給付費負担金)2億3,700万円増など

歳入(分母：経常的に収入される一般財源)は3億5,000万円の増加

臨時財政対策債の増(10億5,000万円)

地方消費税交付金の増(1億1,100万円)

地方交付税の減(△5億5,700万円)

株式等譲渡所得割交付金の減(△1億400万円)

市税の減(△8,400万円)

